

第 33 回建設業経理事務士検定試験

3 級試験問題

注 意 事 項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑
一 千 百 十 一 千 百 十 一
億 万 万 万 万 の の の の
の の の の の 位 位 位 位
位 位 位 位 位

3. 解答は、指定したワケ内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 石川工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～U）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。
(20点)

(例) 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) 取得原価¥380,000の株式を売却し、その代金¥423,000は小切手で受け取った。
- (2) 当社振出しの約束手形¥530,000が支払期日につき、当座預金より引き落とされた。ただし、当座預金の残高は¥380,000である。当社は当座借越契約（借越限度額¥1,000,000）を結んでいる。
- (3) 現場作業員の賃金¥286,000から所得税源泉徴収分¥23,000と立替金¥18,000を差し引き、残額を現金で支払った。
- (4) 建設用機械¥1,250,000を購入し、代金のうち¥850,000は現金で支払い、残額は翌月払いとした。
- (5) 現場へ搬入した建材の一部（代金は未払）に不良品があったため、¥40,000の値引きを受けた。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 仮払金	D 仮受金	E 工事未払金
F 未払金	G 有価証券	H 有価証券売却損	J 有価証券売却益	K 受取手形
L 支払手形	M 当座借越	N 給料	P 立替金	Q 労務費
R 機械装置	S 材料費	T 材料	U 預り金	

〔第2問〕 次の〈資料〉に基づき、下記の設問の金額を計算しなさい。
(12点)

〈資料〉

1. 平成×年9月の工事原価計算表

工事原価計算表

平成×年9月

(単位：円)

摘 要	A工事		B工事		C工事		D工事	合 計
	前月繰越	当月発生	前月繰越	当月発生	前月繰越	当月発生	当月発生	
材 料 費	34,900	×××	78,300	48,900	×××	58,200	49,100	430,400
労 務 費	16,800	83,900	52,800	×××	39,700	40,300	×××	292,900
外 注 費	12,300	74,200	60,200	19,700	×××	36,400	49,100	×××
経 費	9,600	24,100	×××	×××	18,600	13,300	6,700	115,500
合 計	×××	297,600	×××	98,500	128,000	×××	×××	×××
備 考	完 成		完 成		未 完 成		未 完 成	

2. 前月より繰り越した未成工事支出金の残高は¥427,700であった。

問 1 当月発生の労務費

問 2 当月の完成工事原価

問 3 当月末の未成工事支出金の残高

問 4 当月の完成工事原価報告書に示される材料費

〔第3問〕 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（平成×年11月30日）を完成しなさい。なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。 (30点)

<資料1>

合計試算表
平成×年11月20日

(単位：円)

借方	勘定科目	貸方
803,000	現金	580,000
2,057,000	当座預金	1,603,000
1,694,000	受取手形	1,482,000
1,452,000	完成工事未収入金	840,000
605,000	材料	397,000
550,000	機械装置	
456,000	備品	
1,312,000	支払手形	2,149,000
411,000	工事未払金	908,000
1,089,000	借入金	3,025,000
889,000	未成工事受入金	1,633,000
	資本金	1,000,000
	完成工事高	2,904,000
2,028,000	材料費	
1,381,000	労務費	
898,000	外注費	
505,000	経費	
317,000	給料	
48,000	通信費	
26,000	支払利息	
16,521,000		16,521,000

<資料2> 平成×年11月21日から11月30日までの取引

- 21日 工事契約が成立し、前受金¥300,000を現金で受け取った。
- 22日 当座預金から現金¥50,000を引き出した。
- 23日 材料¥126,000を掛けて購入し、資材倉庫に搬入した。
- 24日 工事の未収代金の決済として¥280,000が当座預金に振り込まれた。
- 25日 外注業者から作業完了の報告があり、外注代金¥189,000の請求を受けた。
〃 材料¥68,000を資材倉庫より現場に送った。
- 26日 現場作業員の賃金¥236,000を現金で支払った。
〃 本社事務員の給料¥134,000を現金で支払った。
- 27日 取立依頼中の約束手形¥460,000が支払期日につき、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。
- 28日 現場事務所の家賃¥47,000を現金で支払った。
- 29日 本社の電話代¥31,000を支払うため小切手を振り出した。
〃 完成した工事を引き渡し、工事代金¥600,000のうち前受金¥200,000を差し引いた残金を約束手形で受け取った。
- 30日 材料の掛買代金¥260,000の支払いのため、約束手形を振り出した。
〃 銀行より¥150,000を借り入れ、利息¥2,000を差し引かれた残額が当座預金に入金された。

〔第4問〕 次の文の の中に入る適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～ス）を解答欄に記入
しなさい。 (10点)

- (1) 当期の収益ないし費用を発生させる取引を a 取引という。
- (2) 支払利息は b の勘定に属し、未払利息は c の勘定に属する勘定科目である。
- (3) 固定資産の補修において、当該資産の能率を増進させるような性質の支出は d と呼ばれ、原状を回復させるような性質の支出は e と呼ばれる。

〈用語群〉

ア 収益	イ 収益的支出	ウ 損益	エ 資産	オ 負債
カ 資本	キ 残高	ク 費用	コ 資本的支出	サ 混合
シ 工事原価	ス 交換			

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されている岩手工務店の当会計年度（平成×年1月1日～平成×年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によって
いる。 (28点)

〈決算整理事項等〉

- (1) 機械装置（工事現場用）について¥68,000、備品（一般管理用）について¥23,000の減価償却費を計上する。
- (2) 有価証券の時価は¥256,400である。評価損を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して2%の貸倒引当金を設定する。（差額補充法）
- (4) 未成工事支出金の次期繰越額は¥394,000である。
- (5) 支払家賃には前払分¥8,400が含まれている。